

与えられた場所で 掴めるものは？

「置かれた場所で咲きなさい」という言葉がありますが、私の motto は「与えられた場所で掴む」ことです。その場所は、自分の希望が叶う場合もあれば、期せずして指定される場合もあるでしょう。その場所を与えられた時期や特徴を考え、そこで自分は何を掴めるのかを探ることが大事だと考えています。

児童学の学びを生かしての就職を希望した私に、最初に与えられた職場は、幼稚園教育の現場でした。

当時はまだ、幼稚園教育と保育所保育に社会的な隔たりがあり、新卒の私が修論成果を保育学会で発表することさえ園長には否定的に受け止められ、外の会合は全幼研（全国公立幼稚園教育研究協議会の略称）だけで良い、とも言われ、驚きました。が、この職場では、国立幼稚園教育をしっかりと学べる訳で、以後、先輩方と全幼研の研究に前向きに取り組みました。九年後に転勤すると、同僚は若手ばかりでしたの

で、今度は市教育センター主催の幼・小・中合同の研修会参加を希望し、教育的視野を広げていきました。家庭生活にあつては、子どもが通った共同保育所の運営委員や保育園の保護者会、子ども会、家族の精神疾患への付き添いなど、大変ですがこれは今しかできないこと、と考えて進めてきました。そしてそれは、保育者養成の職場に移ってから、どれも経験出来て良かったこと、と思えるようになっていきます。

今年度は、コロナ禍により遠隔授業が中心になりましたが、この機会を活用し、本学での八年間に学生や実習先の協力を得て研究できた内容をゼミ生に紹介し、読み取って学び進めてもらっています。

